写真／逢坂聡

Contents.1

WORLD MOOK
ワールド・ムック894

mono STYLE OUTDOOR No.10

© WORLD PHOTO PRESS 2011

表紙イラスト：河合寛
表紙デザイン：小柳英隆（雷伝舎）
DTP：ベイス

編集部より◎商品は取扱説明書に従って正しく使用して下さい。掲載価格は消費税込の総額表示です。実勢価格は編集部調べの市場価格です。

創刊第10号記念特集

山モノの教科書

『モノ・スタイル アウトドア』誌がこれまで学んできた山装備の基本を総集編としてまとめました。
山装備の体系的な知識を学ぶ大特集です。

24 山モノの教科書【ウエア編】

26 ウエアリングの基本／応用編
28 基本Ⅰ　アウターシェル ハードシェル／レインウエア
32 基本Ⅱ　ミドルレイヤー 中綿インシュレーション／フリース
38 応用編　ソフトシェル
42 基本Ⅲ　ベースレイヤー 化繊／ウール／ハイブリッド
46 基本Ⅳ　トレッキングパンツ トレッキングパンツ／インシュレーションパンツ
50 基本Ⅴ　グローブ
51 基本Ⅵ　ヘッドウエア

69 山モノの教科書【ウエア編】

70 基本Ⅰ　バックパック 大型／中型／デイパック
76 基本Ⅱ　フットウエア 縦走対応ブーツ／軽トレッキングシューズ
80 基本Ⅲ　ヘッドランプ
81 基本Ⅳ　アイウエア　基本Ⅴ　ウオッチ
82 基本Ⅵ　トレッキングポール　基本　Ⅶハイドレーション

83 テント泊縦走装備の基本
テント／スリーピングバッグ／テントマット／ストーブ／クッカー類

Contents.2

巻頭企画

7 **2011年秋冬、最新アウトドアスタイル事情**

ストリートからフィールドまで最新アウトドアスタイルの話題を編集部がピックアップ！

53 **アウトドア・ブランド・インデックス**

第1特集「山モノの教科書」をより深く理解するための、最低限のブランド情報を学ぼう。

特別企画

62 **トラガール、到来！**

最近女子の間ではトライアスロンが大ブーム!?　山ガールのネクストトレンドをキャッチアップ!!

92 **新製品情報**

秋冬シーズンのキャンプやアクティビティを楽しむためのツールが満載!!

101 **高橋庄太郎連載『日本の秘境』**

アウトドア業界のNO.1売れっ子ライター高橋庄太郎氏の連載。
今回のテーマは日本が世界に誇る多様なフィールドについて。

特別取材

108 **モンベル「シー トゥー サミット in島根・高津川」**

モンベルが主催するイベント「シー トゥー サミット」を編集部が体験取材。
イベントの先にある日本のフィールド未来像を考える。

写真／逢坂聡
モデル／山下晃和
スタイリング／近澤一雅

monoSTYLE

OUTDOOR HEADLINE

2011AW

2011年秋冬、最旬アウトドアスタイル事情

フィールドが雪の季節に突入し始めた今日このごろ、タウンシーンの秋も深まり、そろそろ街でもアウトドアウエアの着用率が高まってきた。冬のフィールドを楽しむ上級者も、アウトドアファッションフリークも、気分が盛り上がるシーズンに突入だ！

2011年の秋冬、アウトドアプロダクトマーケットにはホットな話題がたくさんあるぞ。新素材や新テクノロジーがたっぷり登場するエポックメイキングな年なのだ。例えば、マウンテンハードウェアの“瞬間脱湿”新テクノロジー『ドライQ』。そしてゴアテックスの新テクノロジー『アクティブシェル』。フィールドシーンがさらにアクティブに活気付くことは間違いなしだ。

ところで『山ブーム』と言われて久しい日本。今年の傾向はどうだったのだろう。キーワードは「ソロ」「縦走」「テント泊」。つまり、山ブームはより専門的な方向にシフトしつつあるのだ。

タウンシーンに目を移しても、今年はアウトドアウエアの調子が良さそうだ。節電によるエアコンの使用制限で寒さを乗り切る機能性ウエアが求められているからだ。インドアシーンでも快適に着用できる高機能製品が高注目を集めている。

またアウトドアファッションブームはこのところ少し落ち着きをみせているが、編集部は、あえて今、レトロアウトドアスタイルのススメを提案したい。フィールドウエアとして一線を退いたレトロフェイスのウエアがストリートシーンでばっちりハマるはずだ。

などなど。次ページより2011〜2012年のアウトドアシーンを彩るホットな話題が盛りだくさん！　まとめてチェックしてみよう!!

写真／逢坂聡　特集スタイリング／近澤一雅　文／編集部

山モノの教科書【ウエア編】

山に登るとき、いったい何を身に付ければいいのか。
じっさい服など何を着てもかまわない。
ただし安全、そして快適さを求めるなら話は別だ。
山の上は地上とは別世界だと思っていい。
大汗をかいて稜線に出てから10分も経つと
汗が体温を奪いつつ乾いていき
身体は冷えて、半そで一枚じゃとてもいられない。
速乾素材のTシャツでさえそうなのだから、

普段の格好をしていたらどうなるかは推して知るべしだ。
夜になればぐっと冷え込み、場所によっては強い風も吹く。
そんな時間に外をうろうろしないとは思うが
星を見たり、夜景を楽しんだり、
外に出なくてもテントの中はもちろん、山小屋の中も
温度管理が行き届いていると思ってはいけない。
汗の処理、保温、動きやすさ、雨対策など
どんな天候・状況でも身体の機能を保つ。
それが山のウエアリングを実践する理由なのだ。

写真（フィールド）／逢坂聡、
写真（静物）／猪俣慎吾、宮坂政邦（WPP）
文／片山貴晴　モデル／山下晃和
スタイリング／近澤一雅

トラガール、到来！

これまで、本格的に登山に打ち込む女性たち「登山ガール」をお届けした本企画だが、今回は過酷なスポーツの代名詞ともいうべきトライアスロンに熱中する女性たち、弊誌命名するところの「トラガール」の実態をレポートする。

写真と文／モノマガ男
イラスト／東洋子

トライアスロン＝鉄人レースではない

え、あなたがトライアスロンをやってるの？　というのが第一印象。

トライアスロンといえば鉄人のためのレースでしょと多くの人が連想する過酷なスポーツの代名詞。それにトライする人々の印象といえば、真っ黒に日焼けしたむきむきの筋肉マンだ。海原をものともしない逆三角形の上半身、ペダルが悲鳴を上げるほど強烈なペダリングを生む高出力の大腿、そしてフルマラソンを走りきるスタミナとド根性!?　だが取材を続けるにしたがってこのイメージは覆された。トライアスロンは普通の人が楽しんでできるとても魅力的なスポーツだったのである。

トライアスロンというより鉄人レースとして伝わったこの三種競技は、日本の茶の間に「世の中にはすごい人がいるものだ」との驚異を与え、トライアスロン＝鉄人レース＝トレーニングを重ねた特殊な人々のためのレースとの公式を当てはめた。これが90年代前半のこと。トライアスロンブームの到来だ。ブームは間もなく収束したが、楽しさを知った人々の手によりショップやレースが精力的に運営され、かつてほどではないが一定の競技者によりこのスポーツは根付いていった。

オリンピック種目

2000年のシドニー五輪より正式競技となったトライアスロンは、ふたたびスポーツとして脚光を浴びたように見える。競技時間の関係もあり、平均して2時間を切るタイムでゴールできるショートディスタンスが採用され（現在ではオリンピックディスタンスとも呼ばれる）、スイム1・5km、バイク40km、ラン10kmキロの合計51・5kmが世界競技トライアスロンのひとまずの共通認識となった。これは超人でなくてもチャレンジし、楽しむことができる新しいトライアスロン像の普及であった。

一方、私たちが混同しがちな鉄人レースだが、これもスイム、バイク、ランの3種目を一人でこなす三種目競技ではあるが、こちらの距離はオリンピックディスタンスに比較するとおよそ4倍となる約226km。スイム3・8km、バイク180kmを走破したのちに42・195km、つまりフルマラソンが待っているという、これぞまさしく鉄人レースというべき頂点的存在だ。

1977年に米海兵隊が「スイム、バイク、ランでどれが一番過酷か」と話していた際に「なら全部まとめてやろう」と翌78年に開催されたのが鉄人レースの起源とされ、現在、世界トライアスロン選手権とは別に例年ハワイでチャンピオンシップが開催されている。

さて広く三種競技においてはこの鉄人レース「ロング」、オリンピックディスタンス「ショート」、両者の中間「ミドル」の3つの距離構成があり、オリンピックディスタンスのほぼ半分の「スプリント」、3種目をチーム3人で1種目ずつ担当する「リレー」、3人がスプリントレースをつなぐ「駅伝」もある。また2種目競技ながら、スイム＋ランの「アクアスロン」、ラン＋バイク＋ランの「デュアスロン」もトライアスロンレースと同時に開催されることが多く、こちらもトライアスリートたちに親しまれている。

「やってみれば」で始めた

63〜64ページの詳細なイラストを描いてくれた東洋子さんはトラガールである。また登山ガールでもある。現在28歳。イラ

1／坂元希佳美
2／建築関係
3／陸上中距離（800m・1500m）、駅伝、空手、バスケット、スキー、スノーボード、ソフトボール
4／出逢い！　輝いている人に出逢えることは素敵♪　自分も負けないくらいに輝き続けたくなる。歳を重ねることにキラキラ輝き続けることはとっても難しいけど、いつも笑顔で前向きに真っ直ぐ目標に向かっている人に出逢えるのがトライアスロンの魅力と思う。たくさんの刺激や感動を与えてくれるスポーツ。
5／アイアンマン挑戦・完走。オリンピックディスタンス2時間30分切り。佐渡Aもしくは宮古島ロング完走！

1／東洋子
2／イラストレーター
3／高校までは美術部。大学でワンダーフォーゲル部。水泳は子供の頃習っていました。自転車は大学の頃借り物のロードバイクを移動手段にしていました。ランニングは山登りのトレーニングのため始めてもう10年くらい走ってますが、まだ10km以上走ったことはありません。
4／三種目全部得意という人があまりいないので、どこかで自分の得意なところをみつけられます。島のローカルなレース等は地元の人が応援してくれたり、レースが無ければ行かなかったような場所の景色や名物を味わえるのも魅力。仲間がいると各種目いろんな練習ができるし、レースもすごく楽しくなります。
5／全体的にもう少し速くなりたいです。

Q&A

トラガールたちへ 5つの質問！

Q1／氏名
Q2／職業
Q3／スポーツ歴
Q4／トライアスロンの魅力
Q5／今後の目標

写真（フィールド）／逢坂聡　写真（静物）／宮坂政邦　文／片山貴晴　スタイリング／近澤一雅　モデル／山下晃和

山モノの教科書【ギア編】

登山に必須のバックパックとシューズ。
山の醍醐味を味わえるテント泊に必要な
テントとシュラフ、マット、ストーブ、
クッカーなどの調理器具。
必ずしも必要ではないけれど、あると便利な
トレッキングポールや各種アクセサリー。
「山をやる人は臆病だから」
山に精通した人ほどこのような言葉を口にする。
「大変だったね」「疲れたね」よりも
「楽しかったね」「また行きたいね」と、
山の雄大さを心から楽しむための
十分なギアを集めたつもりだ。

テント泊縦走装備の基本

衣食住を携え山を旅する“テント泊×縦走”登山

登山の醍醐味を味わえるのは、やはり“テント泊”と“縦走”だろう。衣食住をすべて、ひとつのバックパックに詰め込んで、山から山、尾根から尾根、ピークからピークへと歩く。腹が減ったところで飯を食べ、定められた場所ではあるが大空の下に寝る開放感と気持ちよさ。頂上から景色を眺めて、同じ道で同じ登山口に戻ってくるのも、車でアプローチできるし便利でいいが、2泊で3つほどの山を縦走するだけでも、ずいぶんと違うぞ。“大地を移動している”という旅の感覚がある。

縦走が時間的に無理ならテント泊だけでもどうだろうか。紅葉を見るとか、景勝地を写真におさめるとか、頂上に到達するとか、具体的な目的よりも、ただなんとなく山を楽しみたいと思うなら、自分の力ですべてをどうにかしたほうが楽しさは倍増する。まずは一泊から始めてみよう。

テント泊縦走のためにはここまでで紹介したウエアやバックパック、トレッキングシューズに加え、テント、シュラフ、マットで、ストーブ、クッカーといった食と住のギアが必要だ。どの季節にどこの山に行きたいのか、値段や重量、耐久性、コンパクト性など自分にとって必要なスペックを見極め、基本アイテムだからこそ後悔しないモノ選びをしたい。

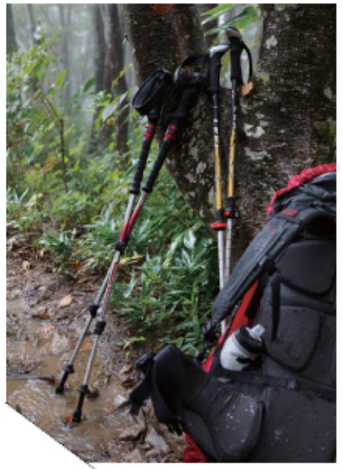
基本 Ⅵ トレッキングポール

荷物が重いとき、力強い歩行を支えるツール

2足から4足歩行へ身体への負担を軽減

トレッキングポールの利点は、バランスの補助や転倒防止だけではない。2本の足に2本のストックがプラスされることで支点が増え、荷重と衝撃が分散されるのだ。歩行時の身体の軸のぶれも抑えられ、膝から足首、つまり脚ぜんたいへの負担が軽減する。じっさい、疲れた頃に試してみると、こんなに楽だったのかと驚くはずだ。ちなみに、トレッキングポールの現在のスタンダードはより安定感に優れ、広範囲をカバーできる2本使用のダブルストック。

トレッキングポールに使われる素材はほとんどがカーボンかアルミだ。前者はとにかく軽くて丈夫。繊維なので錆びないが高価だ。後者は比較的リーズナブル。また、錆びにも強く強度も低いわけではない。



Point 軽さならカーボン。ダブルストックが主流。

シナノ トレランポール11
使用長115cmのアルミ合金製のストックは長さの調節こそできないが、32cmとコンパクトに収納でき、重量も一本あたり156gと非常に軽量。強度もトレランなら充分。強い味方となる。価格1万5750円

ブラックダイヤモンド トレイルショック
オールアルミ製シャフトにコントロールショックテクノロジーを搭載。衝撃をしなやかに吸収して疲労を軽減する。十分な強度を備えつつ使い勝手の良いフリックロックシステムを採用。価格1万500円

レキ SPDサーモライト アンチショック
シャフトの直径を細くすることで軽量化を実現。グローブをしたままでも高い固定力で調整が簡単にできる独自のシステムや、人間工学に基づいた設計のグリップが快適さを約束する。価格1万8900円

シナノ サントレース 1SX-AS
頭頂部のコンパス付きウッドドームを外せば一瞬に早変わりする兼用ストック。長さを3段階に調節できるステッキ部には、アンチショック機能を内蔵。快適な歩行をサポートする。価格1万2390円
※単品売り

基本 Ⅶ ハイドレーション

効率の良い水分補給は山登りの基本

プラティパス ソフトボトル1ℓ
ベストセラーのウォーターボトルがよりソフトに進化。従来のプラスチックボトルの80%の重さで未使用時には折り畳める。価格1050円

キャメルバック ボディウムチル ジャケットボトル0.62
ボディを握るだけで給水が可能。断熱材を内蔵し保冷を実現。シリコン製のジェットバルブは逆さにしても中身が漏れない。価格1390円

キャメルバック アンチドートリザーバー2.0ℓ
給水口が広く給水はもちろんメンテナンスが簡単に行える。アームを起こしリザーバーの密着を防ぎ素早く乾燥させられる。価格4800円

プラティパス ビックジップ SL 1.8ℓ
スライドロックを採用した開口部は簡単に確実にロックでき、水漏れを防ぐ。ホースをバッグに残したまま給水が可能。価格3780円

Point こまめな給水にウォーターボトルは必須。

水分補給を助ける山の水筒あれこれ

喉が渇く前に給水を、というのは本当で、とくに夏場などまだ大丈夫と思っていてもいつのまにか深刻な脱水症状に陥っていることがある。理想としては15分に一度、ひとくち給水するのがいい。携行する水は少し多いかなと思うくらいでちょうどいい。上のプラティパスの水筒は給水だけでなく調理用の水を持ち運ぶのにも適している。下の3つは本格的な給水用で、トレイルランニングやMTBなどアクティブなシーンに対応するアイテム。とくに右のふたつはハイドレーション・システムといい、いちいちボトルを取り出さずとも給水でき、とても楽。バッグにリザーバーを収納し、左の写真のようにホースの先端を吸って給水する。

各商品の問い合わせ先とブランド情報は53ページからのBRAND INDEXを参照してください。

最後の1ピースはこだわりギア。スタイリッシュなキャンパー諸君にオススメ！

コロンビア PEAK 15

写真のシルバーカラーのほか、ブラックもあり。材質はSSケース、ミネラルガラス、ウレタンバンド。ケース径51mm、重さ110g、10気圧防水。価格2万9400円
㈱セイコーインスツル ウオッチお客様相談室☎0120-181-671

ギア好きをも唸らせるずっしりとした重厚感

この秋にコロンビアから発売されたフィールド仕様の多機能ウオッチ「ピーク15」は、なかなかの出来ばえである。デジタルコンパス、温度計、高度計などフィールドで必要な機能を盛り込んでいるのは正直、珍しいことではない。ハイスペック化が進む近年のアウトドアウオッチ市場では当たり前のことだからだ。編集部がグッときたのは、最近のフィールドギアにはない、その重厚感である。

昨今のフィールドギアはライト&ファスト全盛の時代。ウエアやテント、シューズはもちろん、猫も杓子も「軽量化」を推し進めている。確かに軽量さはアウトドア製品を語る上で欠かせない要素だが、腕時計のようなモノにまでそれを求めるのはいかがなものだろう。それよりも重要なのはタフさではないか？　などと思っていた矢先に目にしたのがこの時計。着用すると迫力のビッグフェイスとずっしりとしたステンレススチールの重厚感が心地良い。防水性もあり見るからに頑丈である。

余談だが上の写真を撮影したのは、時計の撮影に関して定評のあるカメラマンだ。あるとあらゆるジャンルの時計を目にしてきた彼だが、ピーク15の撮影中、「これいいね。久しぶりに時計を買おうかな」と話していた。理由はやはり「重厚感」、それとスペックに比べて価格が「リーズナブル」だからだそうだ。どうやらこのルックス、目の肥えた者の物欲をも刺激してしまうようだ。フィールドスタイルとコーディネイトすれば、良いアクセントになってくれるはず。

New Product Info. for Camping Life

文／印南敦史

この冬も各メーカーから
新製品が続々とお目見えした
すでに話題のアイテムから
今後ブレイクすること間違いなしの逸品まで
いち早くチェックしておこう！

HI-TEC

レトロテイスト大歓迎！

HT RETRO LOタイプ
価格9240円

HT RETRO MIDタイプ
価格1万290円

ハイテックの新製品「HTレトロ」。製造時と焼却処分時に発生する有害物質を減らす低クロムフルグレインレザーをアッパーに使用するなど、エコ素材を全面に採用したシューズ。
㈱ムーンスター お客様相談室☎03-5520-9233

WENGER

機能も雰囲気も充実の逸品

スイスアーミーナイフ「Evo Wood 17」
価格9450円

独特な形状のハンドルと、オリジナルなフォームを施した、革新的なスイスアーミーナイフ。スイス育ちのウォールナットの廃材を再利用した、2つとして同じもののないユニークなデザイン。使い込むほどに風合いが増す。

ハードなアウトドアで使用する道具には、タフで扱いやすく、使い込むほどに風合いを増す逸品を選びたい。自然環境のなかで道具とともに年齢を重ねていく、そんなイメージだ。
㈱ビクトリノックス・ジャパン ウェンガー事業部☎03-3796-0963

OLYMPUS

フェスシーンの必需品!!

モンベル双眼鏡
8×21 RC Ⅱ WP
オープン価格
(実勢価格7000円前後)

窒素ガス充填の、完全防水タイプ双眼鏡。スタイリッシュなデザインも魅力的な、オリンパスとモンベルのコラボレーションモデルだ。わずか215gの小型軽量ボディなので、手のひらやポケットにコンパクトに収まる。

フェスに欠かせない双眼鏡は、デザインも使い勝手も大切。そこでオススメがこちら。洗練されてコンパクトだから、どんな服にもフィットして邪魔にならない。
㈱オリンパスカスタマーサポートセンター☎0120-084215

COLEMAN

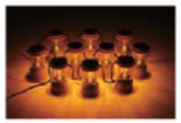
秋冬キャンプ、キーカラーはオレンジ？

シーズンズランタン2012
価格2万6250円

毎年12月に季節限定で発売しているリミテッドエデシション・ランタン。今年のデザインは、"光を灯せば、それは太陽となり、命の輝きを照らす"というメッセージを込めたもので、とても暖かいテーマとなっている。付属する「特製クラムシェルケース」も魅力のひとつ。

コンパクトグランドチェア
(オレンジ)
価格3255円

アウトドアでの「お座敷スタイル」を快適に演出してくれる、フレーム入りグランドチェア。堅実なクロスフレーム構造だから安心して寄りかかることができ、しかも軽量アルミ素材の収束型フレームで持ち運びもラクラクだ。



LEDストリングライト
(オレンジ)
価格2730円

テントサイトのオーナメントに最適な、ランタン型LEDライトを10個連結したLEDライト。Warm Color LEDを使用しているため、白熱灯のような暖かみのある雰囲気を生み出してくれる。点灯、点滅の2段階調整も可能だ。

アイスフィッシング
シェルターオート／L(オレンジ)
価格4万2000円

シリンダーがガス+スプリングのハイブリッドシステムに改良され、半自動で設営が可能になったシェルター。フレームも6本から8本に増え、強度がさらにアップ。サイドについた窓でテント外の様子も楽にチェックできる。

コールマン、2011年秋冬の新製品は暖かみのあるオレンジカラーがポイントだ。オレンジは人間の気分をより寛容にし、他者を受け入れやすくするコミュニケーションカラーの黄色と赤の中間色。生きる喜びや楽しみをポジティブに演出する色であるだけに、アウトドアライフをさらに楽しいものにしてくれるはずだ。
㈱コールマンジャパン カスタマーサービス☎0120-111-957

FLEJ

フィールド宴会を盛り上げるカラフルカップ

フレッジ トレイルカップ
価格1890円

カップの底を指で押すことにより、スプーンなどを使わずにカップ内をかき混ぜられる便利なカップ。高い保温効果があり、コンパクトで持ち運びにも便利。分解して洗えるので清潔だ。

利便性は、アウトドアでの大きなポイント。無駄な動きを省くことは安全にもつながるだけに、使い勝手は大切なのだ。だが機能が優れているだけでデザインが味気なければ、楽しみも半減して当然。だからこそ、手軽に使えてデザインも優れたフレッジのトレイルカップに注目したい。ブラック、ブルー、レッド、ピンク、グリーン、カモフラージュとバリエーションも多いから、色を使い分けて楽しむのもいいだろう。
㈱イワタニ・プリムス☎03-3555-5605

日本の秘境

世界に誇るべき日本のフィールドを知る

文／高橋庄太郎
イラスト／河合寛

●高橋庄太郎
アウトドアライター。知床と西表島に毎年通う一方で、北アルプスをテーマに取材と山歩きを続けている。著書に『トレッキング実践学』があり、来年の春には北アルプスに関する書籍を発刊する予定だ。

約1億2800万人（2010年）と、世界第10位の人口をもつ日本。これだけの人間が限られた国土にひしめいていれば、日本にはすでに「秘境」などは存在しないように思える。

だが「狭い日本」とはよくいうが、世界的な視点で見れば、実際にはそうともいえない。面積約37・8万㎢は世界第61位と、世界の国／地域のなかでは上位1／3以上に入り、領海／経済水域は約447万㎢で世界第9位。地球上では予想以上に広大な面積を占めている。しかも、日本人の多くは狭い平野に集中して住み、島や山林に暮らす人は少数だ。だから、大都市を離れた離島や山岳部を中心に目を向ければ、日本にはいまだ「秘境」と十分に呼べる場所がいくつも残されている。

例えば、自然の豊かさや生態系の多様性が第一条件である「世界〝自然〟遺産」に登録されている地域は、日本にも数カ所存在する。これらは、どこも秘境感に満ちている場所だ。今年6月、小笠原諸島が世界遺産に登録されたことは記憶に新しいが、これは日本では第4番目。世界〝自然〟遺産としては、1993年の屋久島、白神山地、2005年の知床に続くものである。

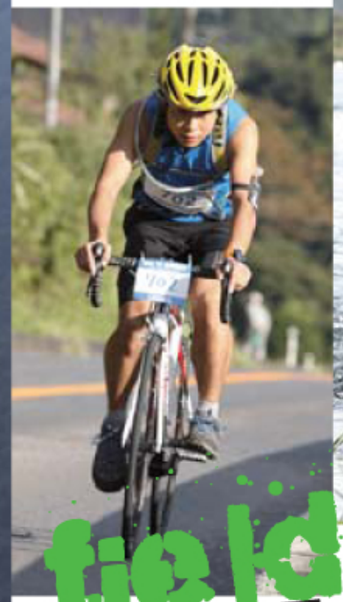
ちなみに、〝自然〟、〝文化〟、〝複合〟の3カテゴリーに分かれる「世界遺産」において、日本の世界登録数は現在トータル16件で、世界第14位。そのうちの4カ所が世界〝自然〟遺産となり、残りは世界〝文化〟遺産となっている。

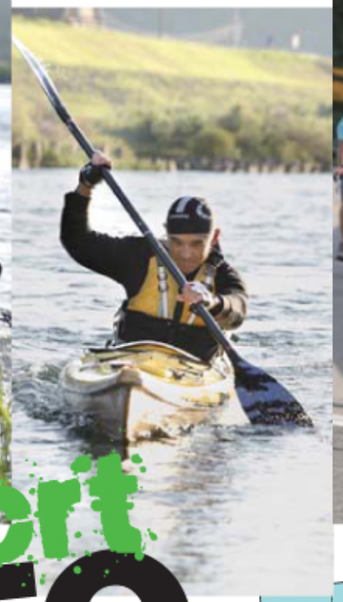
field report

SEA TO SUMMIT in 島根・高津川

「シー トゥー サミット」に参加していなければ生涯で訪れたかどうか。
そんな場所で、フィールドとして、生活の場として、日本のあらゆる場所が豊かなのだということに、
あらためて気付く自分を発見するだろう。どこにでもあるわけではないが、特別でもない場所。
それを守り育むイベントが「シー トゥー サミット」なのだと思った。

写真／逢坂聡　文／片山貴晴　取材協力／モンベル





高津川は島根県西部を流れる、清流日本一に選ばれた一級河川。最寄りの萩・石見空港から羽田空港を1時間30分で結んでいる。

シー トゥー サミットに念願の参戦！

出たいと思っていた「シー トゥー サミット」に参加することができた。この大会はモンベルが主催する環境スポーツイベント。カヤックで川をさかのぼり、自転車に乗り換え里をサイクリング、最後はハイクで山のピークを目指す。途中いくつかのチェックポイントがあり、タイムや順位もちゃんと出るが基本的には競い合うレースではない。参加人数にもバリエーションが設けられていてシングルから最大6名のチームまで（チームならひとつのたすきをつなぐリレー方式か、チーム全員で3種目すべてを行うアドベンチャー方式のどちらかを選べる）、舞台となる日本のフィールドを、それぞれの方法で楽しむ。単独のアクティビティでは感じにくい、自然のつながりや雄大さを体感できるのが最大の魅力だ。

「海で発生した水蒸気が、雨や雪となって山に降り、川となって森や里を潤し、再び海へと還ってゆく。海から山へと自力で進むなかで自然の循環を体感し、自然の大切さについて考えようというイベント」と大会趣旨にもある。

2日間にわたって開催されるこの大会は、一日目にはモンベル会長の辰野勇氏はじめ環境ジャーナリストや作家、農家の方による環境シンポジウムが行われる。また、2日目の大会終了後には表彰式と閉会式だけでなく、音楽ライブや協賛各社提供の豪華商品がゲットできる抽選会など、後夜祭とでもいうべき楽しい企画が目白押しだ。

「シー トゥー サミット」は今年で3年目。去年の鳥取と島根に加え、北海道と秋田・山形も舞台となった。今回私たちが参加したのは島根・高津川大会。そのときの様子は次のページから。

天気も良好 評判通りの楽しさ

朝6時、河口からゆっくり漕ぎ出す。太陽はまだ顔を出さない。黒いシーツの上を滑るように進む。振り返ると除除に明るくなり始めた藍色の川に、たくさんのカヤックが映えていた。

時間差でのスタートで、夜明け前の静けさの中、最初はツーリング気分だ。清流日本一の川面がきらめき始めると周りはカヤックだらけ。数日前の雨で増水して、川底の水草に見とれる暇もなく押し戻されないよう懸命に漕ぐ。

3箇所ほど艇を持ち上げて運んだほうが早いポイントの最後を越えると、前方に第一関門が見えた。しかし流れはとても速い。肩で息をしながら、あと少しというところで浅瀬に降りて艇を曳こうというとき、チェックポイントの岸の上から辰野氏の声が聞こえた。

「降りるなあ！　最後まで漕げえ！」

自転車では安蔵寺山の麓まで高津川沿いの約35キロを走る。地元ボランティアの声援がうれしい。15キロほどで田園風景に変わり、昔の宿場町といった日原商店街を抜けると、除除に山中の風情が漂い始める。道路の下の紺碧の川では鮎釣りを楽しむ人が多い。

第三関門からの7キロは170メートルの上り。自転車を終えると最後の関門の奥谷登山口駐車場までの約5キロ、標高差450メートルは走れる。緑が濃い。登山道に入ると山癖が栽培されていた。水が見えないくらい透明で冷たい。300メートルほど上がれば、緩やかに続く上りと下り。ゴールまであと少しで辰野氏とすれ違う。下山しつつ選手を励ましているのだった。

「ゴールでーす！　がんばれー!!」の声に導かれ目の前の景色が開けてゴールに飛び込んだ。山頂から南東方向に景色が開けている。天気が良いと愛媛県の石鎚山が望めることもあるとか。

Editor&Publisher
今井今朝春
Kesaharu Imai

Editorial Superviser
前田賢紀
Takanori Maeda

Managing Editor
下中順平
Junpei Shimonaka

Designer
小柳英隆(雷電舎)
Hidetaka Koyanagi
フェイバリット・グラフィックス
favorite graphics, inc.

Photographer
逢坂 聡
Satoshi Osaka
猪股慎吾
Shingo Inomata
熊谷義久(WPP)
Yoshihisa Kumagai
油科康司(WPP)
Yasuji Yushina
鶴田智昭(WPP)
Tomoaki Tsuruda
青木健格(WPP)
Takenori Aoki
宮坂政邦(WPP)
Masakuni Miyasaka

Stylist
近澤一雅
Kazumasa Chikazawa

Illustrator
河合 寛
Hiroshi Kawai

Writer
高橋庄太郎
Shotaro Takahashi
片山貴晴
Takaharu Katayama
山下晃和
Yamashita Akikazu
印南敦史
Atsushi Innami

Advertising Director
坪井一雄
Kazuo Tsuboi

Production Director
小川俊介
Shunsuke Ogawa

Circulation Manager
笹川裕史
Hiroshi Sasagawa

Print
Dai Nippon Printing Co., Ltd.

DTP
Base

Correspondents,Washington,D.C.Bureau
(Pictorial Press International)
Norman T.Hatch
Mikako Burks

●乱丁・落丁は送料小社負担にてお取り替えいたします。
●文中の価格はすべて消費税込みの総額表示です。

NEXT
次号予告

●編集の都合上、内容が一部変更される場合もありますのでご了承ください。

Photo/Yoshihisa Kumagai(WPP)

ウェブで会いましょう!

ワールドフォトプレス ホームページ
http://www.monomagazine.com

モノ・マガジン・ウェブショップ
http://www.monoshop.co.jp

WORLD MOOK
ワールド・ムック894
平成23年12月25日発行(通巻894号)
monoSTYLE OUTDOOR NO.10
編集・発行人●今井今朝春
発行所●株式会社ワールドフォトプレス
〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2
TEL: 03(5385)5666[編集部]
03(5385)1350[広告営業部]
03(5385)5701[販売部]
FAX: 03(5385)5617[編集部]
03(5385)1348[広告営業部]
03(5385)5703[販売部]
印刷所●大日本印刷株式会社